

ボールの特性レポート

BALL REPORT



| | | | | | |
|------|-------------|-----|-------|-----------------------|-----------|
| ボール名 | VENOM TOXIN | 投球者 | 徳江 和則 | センター | 平和島スターボウル |
| RG | 2.480 | △RG | 0.034 | ●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール | |

テストボール：VENOM TOXIN

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番

比較対照ボール：VENOM STRIKE

フレアーの幅 インチ

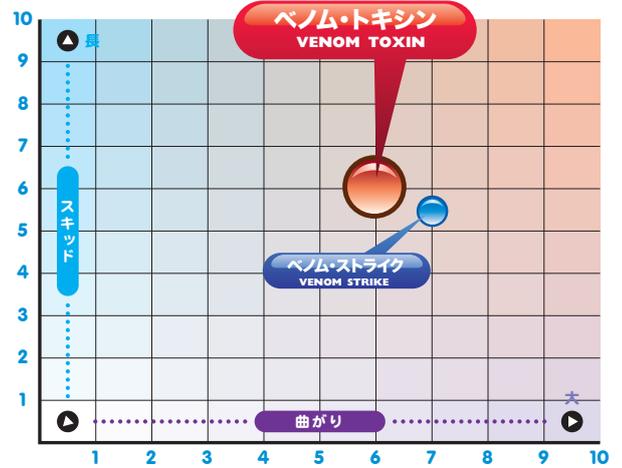
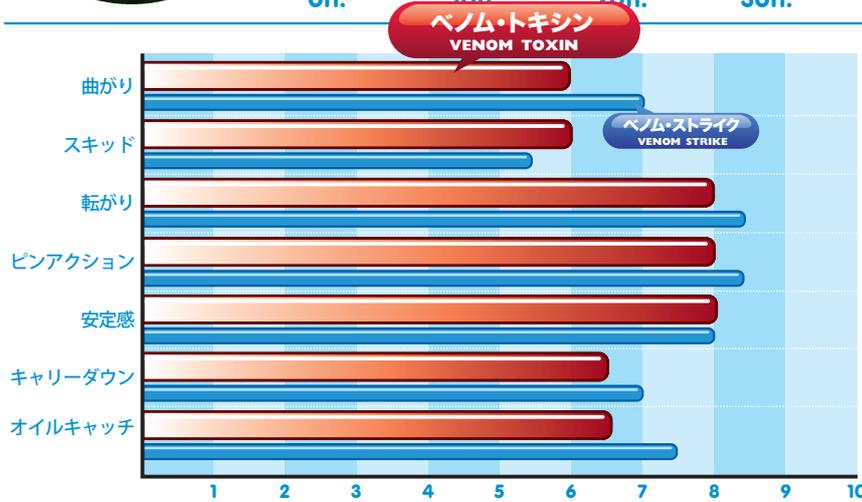
PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番



ボールの評価

独創性に溢れ、つねに斬新な配色とパフォーマンスを提供してくれるMOTIV社。今回ご紹介するVENOM TOXINは、先に発売されたVENOM STRIKEの後継で、同じGT1コアを使用してAtomix Reactiveの改良型であるAtomix Hybrid Radial Reactiveを採用しています。このRadial Reactiveはオイル上でのスキッドとバックエンドの噛み具合を調整する一種の”ラジアルタイヤ”方式で、薄いオイル上でのスキッド感とドライゾーンでの一気に向きを変える反応の良さと激しさをリアクションとして感じます。投球して感じたことはオイル上でのスキッドがスムーズで軽く感じる分、やや厚めのコンディションには不向きで、対応コンディションがミディアムからライトの提示通り、キャリーダウンしたコンディションには左右されやすく、曲がった時の激しさと曲がりきらなかった時のギャップの差を大きく感じてしまいます。このTOXINを有効に使うのであればラインが削られてきてからのやや遅めのコンディションであれば、キッチリと角が出るリアクションまでコントロールすることができます。

前作VENOM STRIKEとVENOM TOXINとの比較では、双方同じ領域と発表されていますが、Solid ReactiveとHybrid Reactiveの差と表面加工の違いはリアクションに顕著に現れ、VENOM STRIKEの方が曲がりを得ることができます。違う見方をすれば、TOXINはよりライトなコンディションで使用できるということであり、遅くなったコンディションで先の動きが出ることもインサイドの投球向きのボール性能とも言えるでしょう。

TOXINという読んで字の如く、毒素をイメージさせるNeon Green/Greenの非常に明るく類をみない配色は、ひと際目を惹く色合いであり、軌道をしっかりと映し出してくれるでしょう。

特記事項

VENOMの最新作は鮮やかな配色で、ミディアムコンディション以下でクリーンな走りと角が出る攻撃的なリアクションが売りのボールです。